

告白をするには月が大きすぎる

細村星一郎

想像していた未来とは違う形で、現実はいつもやってくる。映画であれば抱擁するんだろうなと頭で思いながら、ただただ立ち尽くすこともある。

この句の面白さは〈告白〉や〈月〉という壮大でドラマチックなフレーズが使われているにも関わらず、スケールとして、とても小さな句になっている部分である。

また作中主体の前提に『告白の夜は小さい月に限る』という突飛であるが分からなくない拘りが含まれているところが良い。その拘りには少年の繊細な心や儂さを感じ、この告白は叶わぬ想いなのではないかと読者に想像をさせる。

肝心なのは〈月〉や〈告白〉という文面のドラマチックなフレーズではなく、詩に隠されている作中主体の前提にドラマが潜んでいるというところだ。

細かい部分では結句の字余りが、大きすぎる月の心地悪さに繋がってきて効果的。月の形にケチをつける主人公的な想いと、傍観者的な視点が重なることで良い句になっている。

中山俊一